


団体名	NPO法人マミーズ・ネット	活動タイトル	児童虐待を未然に防ぐための寄り添い型支援事業	
<p align="center">望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>			<p align="center">■ 活動風景</p>	
<p>●地域の望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>当団体の実現したいビジョンは、「子どもの幸せを願う全ての人々が、地域で支えあって子育てしていける社会の実現」である。子どもを授かった時から地域の中に親子が包摂され、親子共に成長しながら「自分の居場所がある」と安心感をもって暮らしていける社会をめざす。 具体的には、子育ての喜びや悩みを共有しあうといった親同士の交流や、地域との結びつきの中で、親子共に自己肯定感を育み、自分らしさを大切にしながら子育てができること。そして、保護者の気持ちに寄り添いながら支援できる子育て支援者が地域に多く存在すること。そして地域全体に「支え合う子育て」が根付くこと。これらの相乗効果によって児童虐待を未然に防ぐことである。</p>		<p>2024年2月26日 子育て支援者向け研修会「子どもへの虐待を未然に防ぐ親へのアプローチ」</p>	
<p>●団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>当団体のミッションは、「地域で支え合って子育てできる環境を整えること」である。具体的には、以下の取組を推進する。 1) 親同士が交流の中で子育ての喜びや悩みを語り合うことで共感しあい、共に支え合える場をつくる 2) 子育て中の保護者が「虐待手法によらないしつけ」について学び、我が子にあったしつけについて考える機会をつくる 3) 親子に寄り添い、力を引き出せる子育て支援者を地域に増やす 4) 男女共同参画の視点を持ち、「子育ては社会全体で支援していく」という啓発を広く地域へ発信し続ける</p>			
<p>●団体の活動基盤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●人的資源：当団体の職員全員が「寄り添い型支援」を実践できる。そのうえで、団体以外にも広くそのような人材が上越地域に存在していること。企画、運営、広報等ができる職員を今よりも増やすこと。 ●物的資源：事業のための場所や物品等を必要なタイミングで助成金等に頼らずとも調達できること。 ●活動資金：子育て中の保護者に経済的負担がない形で、情報交換の場やワークショップが実施できること。そのために自主事業や寄付等の自主財源でまかなえる仕組みが整っていること。 ●情報：寄り添い型支援の取組を、誰がどこで実践してもある程度の効果が得られるようプログラム化すること。職員が目標やキャリアアップの見通しをもって働き続けることで、その専門性を高めていけること。 			
<p align="center">■ 活動報告</p>		<p align="center">■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>		
<p>本事業は児童虐待を未然に防ぐため、「寄り添い型支援事業の普及」と「地域で支え合う子育ての推進」を目的として、下記4つの取組を実施した。 (1) 無料アウトリーチ（出張講座/実施方法説明会）の実施→県内外の子育て支援を行う5団体に寄り添い型支援プログラムを無料で提供。 (2) 子育て支援者向け研修会「子どもへの虐待を未然に防ぐ親へのアプローチ」 →講師：倉石哲也さん（武庫川女子大学 心理・社会福祉学部教授） 参加者76人。会場とオンラインのハイブリット開催で、県内外の子育て支援者が参加。 (3) 子育て中の保護者向け虐待を未然に防ぐためのWS「なかみをふやそう！わたしのしつけちえぶくろ」2回開催→子どものしつけをテーマにしたワークショップ。参加者のべ28人。申込人数は定員の2倍以上の62名。 (4) 人材育成スキームの効果検証→法人内の基盤強化を図るため構築した人材育成スキーム①メンター制度②スキルアップシートと定期的なチーフ面談③目標設定シートの効果を測定。</p>		<p>(1) 無料アウトリーチ（出張講座/実施方法説明会）の実施→3団体募集のところ、7団体が希望。増枠し、5団体約60名の支援者に寄り添い型支援の手法を届けることができた。 (2) 子育て支援者向け研修会「子どもへの虐待を未然に防ぐ親へのアプローチ」 →児童虐待を未然に防ぐための具体的なアプローチを子育て支援者が学び、参加者の約8割が現場で実践できると回答。 (3) 子育て中の保護者向け虐待を未然に防ぐためのWS「なかみをふやそう！わたしのしつけちえぶくろ」→終了後のアンケートでは、参加者全員が1段階以上の変化が見られた。また法人内でも講師を新たに8名養成し、うち2名がデビューした。 (4) 人材育成スキームの効果検証→全スタッフにアンケートを実施し、すべての取組において4段階中3.8と高い評価を得た。働き続けやすい職場であり続けるための具体的取組を定着させることができた。</p>		
<p align="center">■ 事業を通じて得られたノウハウ</p>		<p align="center">■ 望ましい社会状況を達成するための課題</p>		<p align="center">■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>
<p>(1) の取組では、2年間で蓄積した寄り添い型支援普及のための取組を、他団体へ届けるノウハウを身につけた。講師養成や研修会にはニーズがあるとわかり、事業継続のために提供できるメニューが増えた。 (2) の取組では、研修会をハイブリット開催にしたことで、その効果が上越地域のみならず県内外に広がった。また、ハイブリット開催のノウハウを多くのスタッフが身につけた。 (3) の取組では、講師未経験者2名が本プログラムを実施しても、参加者の満足度に差はないことを検証できた。1年目から目指していた「誰が実施しても効果が出る講座」をプログラム化することができた。 (4) の取組では、人材育成のための取組を、専門家のアドバイスも受けながら、当法人の実情にあわせて形にすることができた。また、「働き続けやすい職場環境」という目的のために、スタッフのその時々々のニーズにあわせて取り組みを柔軟に変化させるノウハウを身につけた。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ●本事業を来年度以降も継続して実施するために児童虐待を未然に防ぐために効果的な「寄り添い型」支援の各プログラムを継続して実施していくための資金調達が課題である。3年目で実施したアウトリーチを今後は有料で継続する、新たな助成金に挑戦する、自治体等に開催を促すなどしていきたい。 ●人材育成スキームの効果検証 今年度の取組で運用がスタートした①メンター制度②スキルアップシートと定期的なチーフ面談③目標設定シートは短期的な効果は実証できたものの長期的な効果検証はできていない。引き続き実施と検証を繰り返す中で、当法人独自の人材育成スキームを確立していきたい。 		<p>この1年間の活動を通じて</p> <p>児童虐待を未然に防ぐための「寄り添い型支援」のプログラム確立させ、より多くの地域に広めることを達成しました。</p> <p>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p> <p>保護者「みんな同じだと思えば心が軽くなった」 子育て支援者「親子に寄り添うことの大切さを改めて理解した。現場で生かしたい」 スタッフ「取組のおかげでコミュニケーションの機会が増えた」</p>